

**特集：多様な主体によるプレコンセプションケアの推進****<報告>****子どもの生命を守るために必要な知識を総合的に啓発する仕組みづくり  
～関係部局協働による学校と連携した思春期講座の実施～**

風間邦男

藤枝市子ども未来応援局子ども・若者支援課

**Building a Comprehensive Awareness System to Protect Children's Lives: Implementation of Adolescence Seminars in Collaboration with Schools through Cross-Departmental Cooperation**

KAZAMA Kunio

Children and Youth Support Division Children's Future Support Bureau, Fujieda City

**抄録****【目的】**

近年、思春期の子どもたちを取り巻く課題が複雑化・多様化する中、市では将来の孤立を防ぐ土台として、生命の尊厳や自他尊重の理解、および適切な相談行動の促進が重要であると認識した。本報告では、教育と福祉の部局間連携を通じ、全ての児童生徒に体系的な教育機会を保障する「思春期講座」の構築と展開について述べる。

**【方法】**

令和3年度に多部局（子ども若者支援、健康推進、男女共同参画、教育等）及び専門家・学校関係者からなる検討委員会を設置した。学校現場との調整、モデル実施、アンケート調査に基づく改善を繰り返すことで、国の「生命の安全教育」の趣旨を踏まえた標準化されたプログラムを開発した。令和4年度より市内全公立小中学校で実施し、タブレット端末を活用したアンケートにより児童生徒の反応を把握している。

**【結果・考察】**

本講座は、予防教育と相談・支援を一体の導線として設計し、学校の教育活動の一部として体系化を図った。特に、教育・福祉・保健部局と学校現場が緊密に情報共有し、指導要領との整合性を担保したことで、教育現場で実現性の高い持続可能な体制が構築された。また、講座後のアンケート結果や講師の所感を関係機関で共有することで、個別の相談支援へと円滑に接続する仕組みが定着している。今後はこの連携を深化させ、ライフステージを通じた切れ目のないプレコンセプションケアの推進につなげていく。

**キーワード：**思春期講座、生命の安全教育、多部局連携、学校教育、プレコンセプションケア、相談行動の促進

連絡先: 藤枝市役所子ども未来応援局子ども・若者支援課

〒426-8722 静岡県藤枝市岡下山1-11-1

E-mail: kodomo@city.fujieda.lg.jp

[令和8年3月25日受理]

## Abstract

### [Objective]

As issues involving adolescents become increasingly complex and diverse, this city recognized the importance of fostering an understanding of the sanctity of life and mutual respect, and of promoting appropriate help-seeking behavior as the foundation to prevent future social isolation. This report describes the development and implementation of "Adolescence Seminars," which have been designed to ensure systematic educational opportunities for all students through inter-departmental collaboration between educational and welfare services.

### [Methods]

In FY2021, an overseeing committee comprising members from various departments (child support, health promotion, gender equality, education, etc.), experts, and school personnel was established. By repeating the process of making adjustments for schools, pilot implementation, and improvement based on student surveys, a standard program aligned with the national "Safety Education for Life" policy was developed. This program has been implemented in all public elementary and junior high schools in the city since FY2022, and student feedback was collected via tablets.

### [Results/Discussion]

The seminar integrates preventive education with counseling and support services, structured as part of school educational activities. Close information sharing by education, welfare, and health departments in alignment with the National Curriculum Standards has facilitated a sustainable framework that is practical for school settings. Sharing of survey results and instructor insights among the relevant organizations ensures a seamless transition to individual support when needed. We aim to strengthen this collaboration to promote continuous preconception care throughout all life stages.

**keywords:** adolescence seminar, safety education for life, cross-departmental cooperation, school education, preconception care, promotion of help-seeking behavior

(accepted for publication, March 25, 2026)

## 1. はじめに

2015年～2020年にかけて「出産直後に生まれた子どもを遺棄する」という事案が複数発生するなど、子どもたちを取り巻く課題も複雑化・多様化する中、重大事案は知識だけでなく、孤立や相談にしにくさ、人間関係の中での追い込まれるなど複合要因で起こり得る。そこで本市では、令和2年度に思春期の段階で命の尊さや自他の尊重を学び困ったときに相談できる力を育てることが将来の孤立を防ぐ土台になると整理した。一方で国から「性犯罪・性暴力対策の強化方針」が同年に示され、令和5年度より小中高で「生命の安全教育」を推進することとなった。

以前は各部局が中学生向けにメンタルヘルス、エイズ予防、デートDV、性教育などの講座を希望する学校に実施していたが、希望制のために学校間で実施状況に差があり、本来子ども達に知っておいて欲しい知識が全ての子ども達に伝わっていないという課題があった。そこで、思春期段階で体系的に学べる教育機会を確実に届ける仕組みとして他部局協働による学校と連携した思春期講座を作り上げ、国の施策に先駆け令和4年度より講座を開始し、現在は市内全公立中学校で各2回、全小学校で各1回実施している。

## 2. 講座実施に向けた取り組み

### (検討委員会の設置)

- ・令和3年度に子ども家庭課（現こども・若者支援課）が事務局となり、検討委員会を立ち上げた。
- ・委員は、こども未来応援局子ども家庭課（デートDV）、健やか推進局健康推進課（性教育・ネット依存・自殺予防）、市民協働部男女共同参画・多文化共生課（性の多様性）、教育部生涯学習課（子どもの権利擁護）、教育部教育政策課（いじめ防止）に加え、教諭、養護教諭、民間の心理カウンセラー（元中学校教諭）で構成し、大学の看護学部の教授にもアドバイザーとして参加いただいた。

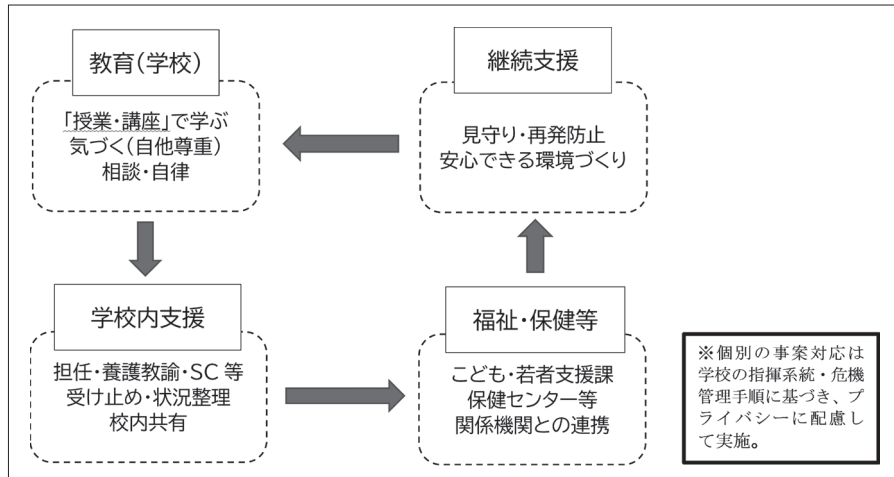
### (講座内容の検証)

- ・令和3年度に検討委員会の委員が所属する中学校でモデル的に実施し、検討委員会委員も一緒に聴講した後、学校との意見交換や生徒へもアンケートを実施し、講座内容の必要な見直しや拡充作業を行った。

### (学校との調整)

- ・市校長会で事業説明を行い実施の了承を得た
  - ・各学校で講座の担当教諭を設定してもらい、教諭向けの研修会を実施した
  - ・養護教諭との情報交換会を実施した
- (講座の講師)

- ・検討会委員である教諭、心理カウンセラー、養護教諭



教育と福祉の連携イメージ図～講座を起点とした支援導線～

### 3. 講座の目的(ねらい)

- (1)生命の尊さを学び、生命を大切にする態度を育成する
- (2)自他を尊重し、困難場面で適切に意思決定・行動選択できる力を育成する
- (3)相談行動の促進と、早期の相談・支援につながる導線の確保する

### 4. 講座の特徴(強み)

- (1)学校教育(予防教育)と、福祉・保健等(相談・支援)を一体の導線として設計。国の「生命(いのち)の安全教育」(性犯罪・性暴力対策の強化方針の趣旨)を踏まえた取組である
- (2)学習指導要領に基づく学校の性に関する指導と整合させ、学校の教育活動の一部として実施し、知識の伝達に留めず、子ども達が身に着ける目標を明確化している  
生命の安全教育における児童生徒の目標【授業で人を育てる 5つの柱】
  - ・己の発達課題に対して適切なタイミングで相談すること。【自己決定】
  - ・よりよい人間関係について考えることができる。【相手とのかかわり】
  - ・「自分らしさ」に気づく。【存在感】
  - ・親しい関係でも自分と相手の気持ちを大切にすることが大事とわかる。【人間的ふれあい】
  - ・自己の心身の成長発達を踏まえ、発達の段階に応じて正しく理解し、直面する課題に対して適切な意思決定や行動選択ができる。【発達の可能性】
- (3)「第2期 藤枝市教育振興計画 教育大綱」等との整合性を確保し、単年度の企画にせず持続性を持たせるとともに、こども計画や保健分野の計画等にも位置づけている。
- (4)講座を内容別に希望制で実施から市として標準化した講座へ転換し、毎年全校で実施する仕組みである。
- (5)各学校がそれぞれ準備して実施するのではなく、関係

部局協働により内容を統合・体系化し、学校で実施しやすく、かつ内容の質を担保する

(6)大学教授や心理カウンセラーなどの専門家及び学校関係者(養護教諭等)の助言を反映し、学校で実施可能で、子ども達に届く内容である

### 5. 講座実施上の配慮

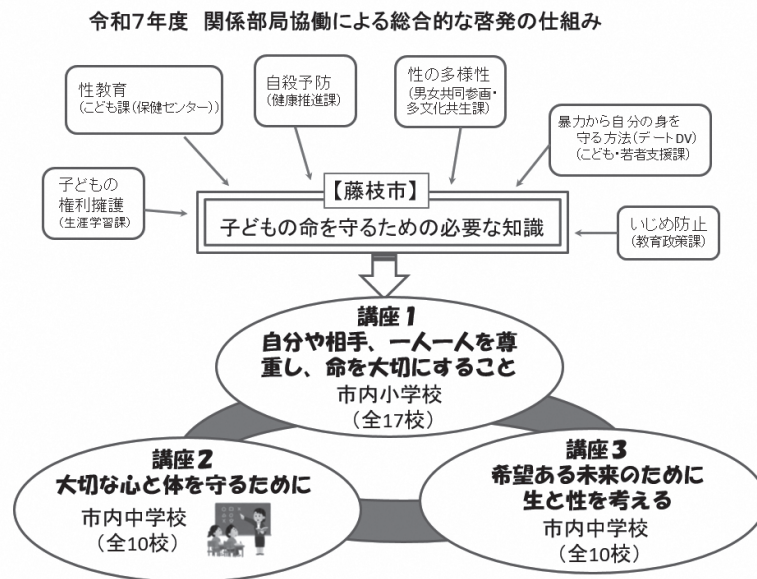
- (1)発達段階への配慮、校内共通理解、保護者理解の確保
- (2)集団指導と個別指導を区別し、必要に応じて支援につなぐ  
学校内：養護教諭、スクールカウンセラー等 市：こども・若者支援課等  
「講座で気づく」→「学校で受け止める」→「必要に応じて関係機関につなぐ」流れを前提化

### 6. 講座の内容

- 講座1 【小学校】 自分や相手、一人一人を尊重し、命を大切にすること  
心と体の成長、心のイライラ、Hな言葉など
- 講座2 【中学校①】 大切な心と体を守るために  
性教育、性の多様性、権利擁護、デートDVなどを総合的に啓発
- 講座3 【中学校②】 希望ある未来のために生と性を考える  
妊娠・避妊・性感染症など

### 7. 児童生徒等へのアンケート実施

- 講座実施後は児童生徒に一人一台配布されているタブレットを活用しアンケートを実施している。
- 《アンケート内容》  
思春期講座『思春期の心』アンケート【小学生】
- ①今日の講座について  
聞いてよかった ・ 特に何も思わなかった ・ わからない
  - ②講座を聞いてわかったことはなんですか。



③もっとくわしく知りたいことはありますか。

④今日の感想を記入してください。

**思春期講座『思春期の心』アンケート【中学生】**

⑤今日の講座について

聞いてよかった ・ 特に何も思わなかった ・ わからない

⑥一番印象に残った内容は何ですか。

身体の変化 ・ こころの変化 ・ 性のあり方 ・ デートDV  
性交について ・ 妊娠できる年齢 ・ その他 ( )

⑦講座を聞く前から知っていた内容はありますか。

身体の変化 ・ こころの変化 ・ 性のあり方 ・ デートDV  
性交について ・ 妊娠できる年齢 ・ その他 ( )

⑧もっと詳しく知りたい内容はありますか。

身体の変化 ・ こころの変化 ・ 性のあり方 ・ デートDV

**思春期講座『生と性を考える』アンケート【中学生】**

①命が誕生するまでの過程を知り、命の大切さがわかった

はい ・ いいえ ・ わからない

②性交にはリスクが伴うことがわかった

はい ・ いいえ ・ わからない

③自分の行動は未来につながるし、責任も伴うことがわかった

はい ・ いいえ ・ わからない

④感想や気付きなどを書いてください

**8. 所感**

本講座を実施し改めて感じることは、子ども達に必要な知識を確実に伝えるためには教育現場との連携の重要性である。行政がいくら素晴らしい資料を作っても学校で活用されなくては子ども達に伝わらないため、児童福祉・保健部局が教育部や学校現場などしっかりと情報共有・意見交換する中、講座構築に教諭、養護教諭を検討委員に加えたことは効果的であった。また、令和6年度より児童福祉部局に教諭を配置し、学校における性教育と本講座の関連系統を整理（別紙一覧表）したことで、学校での本講座の理解を深め、事業や生徒指導が行われていることを前提に講座を実施できたことにより、学校現場で実現しやすい講座づくりに繋がったと考える。

また講座実施後に、講師が児童生徒の授業や講座の理解度などの感じたことや、アンケート結果から見える児童生徒の実情を学校、教育部、児童福祉・保健部局、講師で共有することで、学校において児童生徒の指導に役立てるとともに関係機関が連携した支援に繋がっていると感じている。

【別紙】

性教育の内容と教科の関連系統一覧表

藤枝市版

